

ることではできても、完治させることは不可能で、HIV 感染は死を意味することになる。

ここに悲劇の一因が存在する。すなわち恐ろしい病気、不治の病、死病といった忌まわしいイメージが付与されてきたため、人々がHIV を恐れるだけではなく、HIV を保有した人である感染者、患者までを避けるといった過ちが生じたのである。さらに、当初アメリカ合衆国において男性同性愛者、薬物中毒患者等の限られた人々に多発したことが、誤ったイメージと偏見を与え、これらが対策を遅らせる原因にもなったのである。しかし、現在感染者の八十％は、異性間性交渉によって感染している。わが国においても図に示されたごとく、急増しているのは異性間性交渉による感染者なのである。

予防

エイズの予防は決して難しくはない。何故なら HIV は手で触れたり、空気や食物から感染することはないからである。つまり行為が感染源であるエイズは、不特定多数の人と性交渉を持つこと、あるいはその様な人と性交渉を持つことをしなければ、まず、普通はかかるない病気なのである。ソープランドや海外へのセックスツアーといった性的商品化や、いわゆる性の氾濫がその感染経路の主流なのである。

感染爆発前夜

しかしながら、これは合衆国の様な感染爆発を起こした所では成り立たない。つまり、「普通の人」が「普通の人」と性交渉を持つても、感染の可能性は否定できないのである。わが国はまだ爆発的流行には至っていないが、実は、大変心配している。感染爆発へいくのか、それともこれを阻止できるのかという瀬戸際が今なのである。

心の中に予防の鍵がある

欧米ではコンドームの使用(safer sex)、十分に知り合うまで性交渉をしない(no sex)、セックスパートナーを限定する(steady sex)

医療とボランティア

「あなたには何ができるか？」

医学部附属病院原医研内科 高田 昇

エイズとともに

生きる時代

そして恋人同士の抗体検査が予防策として推奨されている。確かにコンドームは感染防止に有効であるが、それですべてが解決するわけではない。すなわち、コンドームという道具で感染を防止するだけでなく、互いに信じ合い、愛し合う関係を持つことが大切で、相手を大事にする心が抗体検査へと導いていくような関係が必要なのではないだろうか。

エイズは患者の肉体的生命を蝕むが、エイズに対する社会の偏見や差別は、感染者、患者の社会的生命を奪う。そしてその偏見や差別がある限り、感染は潜行し拡大していくことを感染爆発国アメリカが教えてくれている。感染爆発前夜といわれる今、私達に求められていることは、感染者、患者を受け入れ、彼らと共に、共生していく社会を築くことであり、私達の心の中に誤解や無理解、無関心、偏見がないか一人ひとりが見つめなおすことなのではないだろうか。

広島にエイズ患者がいないと思っはいいませんか？それは認識不足です。輸入血液製剤で感染した血液疾患の患者さんは人口比率通りいます。知らなかったとはいえ、私は大切

に思っていた患者さんにエイズウイルスを注入してしまったのです。それ以来、私はエイズから逃げないと覚悟を決めました。セックスで感染した人もいます。外から見てはわかりません。すでにあなたは感染者とともに社会で生活をしているのです。まずこのことを強調したいと思います。

エイズ検査目的で 献血しないこと

エイズはHIV（ヒト免疫不全ウイルス）というウイルスが原因です。血液・性行為・母子間と、三つの経路でしかうつりません。症状がない時期が十年くらいありますから、予防行動をとらないと感染の原因になります。感染していることはエイズの抗体検査でわかります。ほとんどの感染者に抗体ができるまで、三ヶ月近くかかります。献血でも検査をしますが、これは患者さんを守るためです。もし検査でわからない時期の血液が輸血されると危険です。検査の結果は献血者に教えませんが、検査がわりに献血をする人が増えるからです。

エイズ検査のもつ意味

検査は保健所や医療機関で受けられます。検査のメリットの第一は、感染の事実を知る

ことにより、その人の健康管理のために医師はアドバイスできます。病気の進行を防いだり、ひどい状態にならないよう予防する治療も進んできました。第二のメリットは感染を知ることにより、拡散を防ぐことができます。一方、少数の例外を除いて、結果を本人に伝えなければなりません。ウイルスを体外に追いつく治療はありませんから、感染者は一生ウイルスと共に過ごさねばなりません。感染しエイズ発病ではないけれど、本人にとってははずれ発病、そして死を強く意識するのです。その上エイズには差別という「社会的な死」がつきまといまいます。家庭、学校あるいは職場での差別を思い浮かべ、深刻な心理的困難を抱えてしまうのです。この困難を乗り越えらるる条件がない場合は、易々と検査をすればいいとも言えないのです。

エイズ感染者のニーズ

感染者と確認されたら、医療でできること、そしてできないことを率直に説明します。次にご本人ができることと、避けて欲しいことを話します。本人の希望を聞きます。感染者の悩みは深いものです。経済的な問題もあるでしょう。場合によっては「先輩の感染者」が相談相手になってくれることもあります。ポイントは「その人がどんな病気であるか、ということではなく、どんな状況でその病気を抱えているのか」ということなのです。多様なニーズに答えてくれる物的・人的資源があるかということなのです。

エイズ感染者を支える人達

医者、看護婦は医療を提供するのが仕事です。でも心の悩みや生活の悩みの解決には役に立たないこともあります。それを助けるのが心理の専門家（カウンセラー）やケースワーカー、そしてボランティアです。

例えば一人暮らしの患者さんで、病状が進んで動けない状態になったら、洗濯もできません。このように、生活を支える人達がエイズ・ボランティアの究極の姿です。他に、教育活動・電話相談・イベントの実施・行政への働きかけなども仕事です。

エイズのメモリアルキルトという運動があります。亡くなった患者さんの家族、恋人、友人達が集まって、畳一枚分の大きさの布に、名前や生年月日や思い出の品などを縫い込みます。キルトを作ることは深い悲しみの喪の作業です。かけがえのない大切な人を失って悲しんでいる人がいる、ということが見る人の胸に伝わってきます。

広島のエイズ・ボランティア

二年前に広島でキルト展を開いたメンバーが中心になって、「広島エイズ・ダイアル（HAD）」というボランティア団体を作りました。名前どおり、まずエイズ電話相談を始めました。ビデオや映画の上映会、市民向けの講演会、教育活動もしています。医師、看護婦、教師もいますが、普通の家庭の主婦や広大生も参加しています。ボランティアの中に、感染者も加わってきました。ある患者さんはHADの集いに夫婦で参加して、体験談を語る予定でした。残念ながらその二週間

前に亡くなり、彼の手記が代読されました。迫ってくる死への恐怖、残される家族への愛情、そしてエイズの広がりを防ぎたいという彼なりの使命感が書かれていたのです。エイズは新しくて手ごわい病気ですが、人間でもっと素晴らしいのです。あなたには何ができるか、ちよつと考えてみて下さい。

広島エイズ・ダイアル（HAD）
代表 河野美代子
電話番号：〇八二―二四二―一五〇五
〇八二―二九四―四五九一

運転の知恵

―あなたは交通事故をどう防ぐか―

西条警察署交通課長 藤川 純 夫

若者の交通事故は

若者の自動車運転中の死亡事故が多発している。

平成四年中の広島県の交通事故死者数は、二五六人で、その内、若者（一六〜二四歳）の死者数は八八人、前年と比較して一二人、一五・八パーセント増加しており、全死者数

の三四・四パーセントと大きな割合を占めている。

広大生の交通事故を見ると、広島、西条キャンパス周辺や広島・東広島間の幹線道路での事故が多発し、昨年五名の学生が交通事故で亡くなっている。

若者の運転傾向は

若者の運転傾向について、スピード指向と自信過剰を指摘したい。

死亡事故の原因を見るとスピードの出過ぎは各年齢層にあるが、若者では全体の六四・八パーセントを占めている。

いわゆる暴走族っぽい事故ばかりでなく、まじめな若者が起こすケースが結構多い。

限界への挑戦というチャレンジ精神が旺盛な反面、運転技術や車両の性能を過信して自分本位の運転になりがちなのではなからうか。スピードを出すことがうまい運転ととらえることは危険である。

若者の交通事故を防ぐには

カーブ走行は
見える範囲で止まれる速度

若者の死亡事故をひと言で表現すれば、「夜間、スピードを出し過ぎ、カーブを曲がり切れず……」というのが典型的なパターンである。

カーブ事故の態様は、
○ 高速でカーブに突入して曲がり切れず慌てて急ハンドルを切ってコントロールを失う場合